

【母子相毒体験】

主人が居るのに息子とセックス
バレるのは時間の問題でした：



博之。
ちよっとね。
お願いがあるんだけどね。



なあにー？
いま忙しいんだけど

ちよつとマッサージお願いできない？
背中が痛くて痛くて…







博之の部屋の
ベッドを借してもらっていいかな。



ふう：
早速：
お願い：



え...
そう言いながら
寝ちゃったよこのひとは。



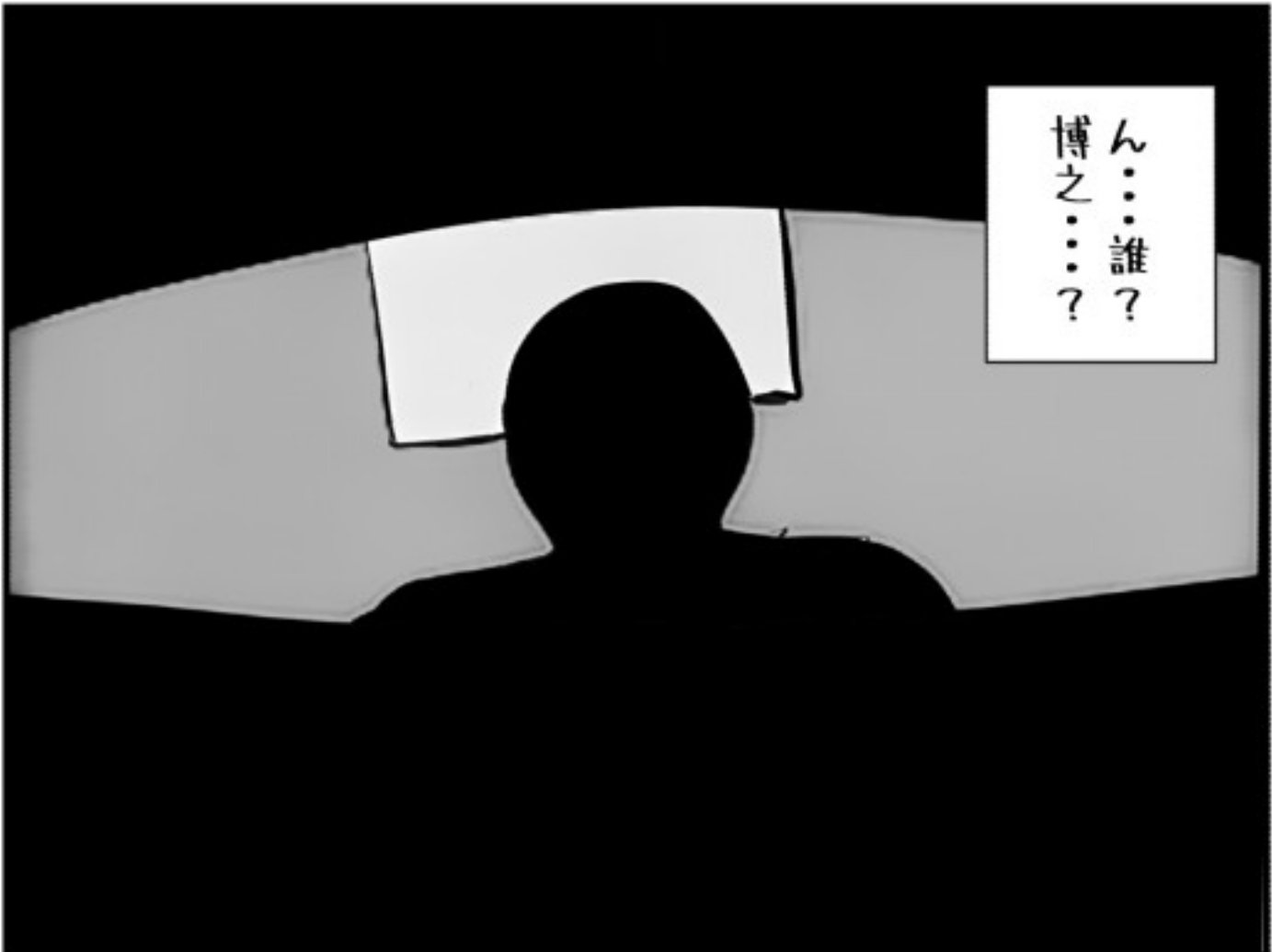
僕のベッドで母さんが上半身裸で寝てる...

今なら...
何しても...
いい... よな...

あれ……わたし……
どうしたんだっけ……

そうだ……たしか……
息子にマッサージを頼んで……

ん……誰？
博之……？



って……ちょっと……え？
何が起きてるの？!!

母さん……
ごめん……
こんなことに
なっちゃった。




だめよ！
すぐ抜いて！
実の親子ですることじゃないわ！

もうがまんできないんだよみ



あ……
母さんの……唇……
うばっっちゃった……

ん……んぐぐぐ……
この子……舌を入れてくるなんて……
えー……



母さんっ……
もう出ちやう……

え？だめっ……なにやって……はあうっ




それから私は
息子と何度も何度も




行為を繰り返して行いました。

親子で許されない行為を……





翌日も、またその翌日も…
私と息子の禁断の行為は
続きました…。



たとえばそれはキッチンで…

浴室で：

しかし……そんなことを続けていけば……いつか問題は起こります。



とつぜん主人が浴室のドアを開けたときは生きた心地がしませんでした。

あまり長湯すると
のぼせるぞみ〜

わ…わかったよ父さん…







そんなピンチが毎日起こりながらも危険なことを続けていたのは、
そのスリルを楽しんでいたのかも知れません。



当然ながら…

一か月も経たないうちに二人の関係は主人にバレました。

それから主人とは離婚。

今では堂々と二人で母子の壁を越えて堂々と毎日セックスをしています。
もう、息子の身体なしで私は生きられます。



終